

緑園国際交流トークサロン No.146

アラビアの宝石 オマーン

2019年10月26日 13:30~15:30

昨日までの大雨から一転して晴れ上がり秋らしい季節の中、緑園クラブハウスで横浜国立大学の留学生モハメド・アルシャンファアリさんと、通訳として同じく横浜国立大学の留学生チョウさん（台湾出身）を迎えてトークサロンを開催した。

当日は、日本オマーンクラブ名誉会長の遠藤晴男さんを始め、中江信さん、三橋さんの3名の同席やコーヒー・スイーツの試飲・試食もあり、約30名の出席を得て何時にも増して盛況であった。

アルシャンファアリさんは、まず最初に思い浮かぶこととして、2018年9月に初来日した時、成田空港到着ロビーで警察官に呼びとめられたが、それは職務質問ではなく緊急事態用メモを手渡してくれたこと、2012年ワールドカップのアジア最終予選でオマーンが日本とサッカー予選を戦ったことから、自分の出身国であるオマーンが存在が知られていたことを話した。

オマーンは、アラビア半島南東部に位置するアラビア最古の独立国家で、首都はマスカット、面積約309千km²、人口約4百万人、通貨はオマーンリヤル（1 Omani RIAL≒282.44 JP円）。公用語はアラビア語だが、英語が広く通用し、歴史的経緯からバルチ（Baluchi=ウルドゥ語に類似）やラワティ（Luwati=ペルシャ語に類似）を話す人もいる。宗教は、大半はイスラム教徒でザイド派・スンニ派・シーア派が共存している。居住者全体の64%がオマーン国民で36%が外国人、国民の1/4が15才以下という若い国である。

2017年10月現在で156名の日本人が居住している。2012年に日本・オマーンの外交関係樹立40周年を迎え、オマーンと日本の皇族は互いに長らく親しい関係を築いてきた。歴史的には、1619年日本人のクリスチャンがエルサレムに行く途次にオマーンに立ち寄ったとの記録があり、近年では1936年に当時の前国王が日本人女性（大山清子さん）と結婚するなど、両国間には何かと縁があるとのことであった。

オマーンから日本への輸出は金額順に原油・天然ガス（石油関連産品）、アルミニウム（鉱物資源）、イカ・サヤインゲン・マグロ（食料品）で総額2105億円、オマーンの日本からの輸入は自動車、電子機器等で総額2610億円となっている。将来的には石油関連への依存割合を減少させ、かつて盛んな時期もあった造船業の振興も検討課題である。オ

マーンは “Safe, Stable and Reliable = 安全、安定”、宗教的寛容があり綺麗な国であると言われ、各種の調査や統計からも、働きやすく、生活しやすく、安全な国との裏付けがされている。

気候は夏冬半々で、4～10月の45℃超える“地獄”の夏と、11～2月の14℃～27℃の“天国”の冬に分かれている。国土は、僅か3%の平野（主に東南海岸部）、15%の山（北部）と82%の砂漠から成っている。世界で唯一、海洋地殻とマントルの岩からなる、地質学者には極めて興味をそそる地域がある。

東海岸にはウミガメの繁殖地があり、高級ホテルも進出しリゾートになっている。ラクダの肉などを米に混ぜたカブーリ（Kabuli）や鶏肉を香辛料で味付けたハリース arees）は、一般的な食べ物でラマダン等の時に、多くの人が日没を待って一斉に食べる光景は壮観である。デイツ（Dates = なつめやし、栄養価が高い）やハルワ（= Halwa、スパイスにより味が異なる）というスイーツがある。

オマーンは独特の建築様式を有し、世界遺産に指定された城もある。娯楽としては、競馬・ラクダレースや闘牛があり、サッカーはとても人気のあるスポーツである。伝統的ダンスは地域ごとに多彩である。服装については、男性は宗派によりやや異なるが、白が正装であり装飾品としての短刀は国旗のデザインにもなっている。女性は地域によって多彩かつカラフルであるが、普段外出するときは全身黒の服装で、中高年女性は顔の前面をバットマン風の布で覆うこともある。

アルシャンファーリさんから一通りの説明があった後、オマーンの国民的飲み物であるコーヒーとデイツが振る舞われ、持参した木を焚いて部屋には乳香の香りが漂った。続いて遠藤さんから、オマーンの呼び名として、評論家の宮家邦彦氏からは“Conscience of Gulf = 湾岸の良心”遠藤さん自身は“Wisdom of Middle East = 中東の叡知”があることを紹介され、闘牛（押すだけ血を流さない）や乳香（木にキズをつけて焚く）についての知見が披露された。中江さんからは、オマーン大使館での11月の行事である11/12(火)-18(月)10:00-17:00 写真展や11/7(木)14:00 オリンピックの裏話について紹介あった。

－詳細については、日本オマーンクラブにご照会ください。

最後に、異教徒との結婚する場合の改宗の要否、平和が保たれている理由、中国との経済的関係等について質疑応答があり、集合写真を撮りトークサロンを終えた。

文責：桑山賢治（RCA 国際交流委員会）